

2018 輝く会員企業・企業づくりのあゆみ

よい会社をめざす『中小企業憲章』

巻頭特集「2018輝く会員企業・企業づくりのあゆみ」では、大阪同友会が会員と共に取り組む同友会理念の実践と、運動の普及を分かりやすく解説します。前半部では個々の会員が抱える経営課題にどのように向き合っているか取材し、会社を発展させてきた輝く会員企業を紹介し、後半部では課題に対する大阪同友会としての取り組み、フォローメニューを紹介し、また、続く「土業の目」では土業会員が専門家ならではの視点で解説します。

編集：情報化・広報部 大西 隆裕

地域支部ができて気づいた中小企業憲章の意義

株式会社光製作所 代表取締役社長 井上 吉史 (大阪東ブロック・東成・生野支部)

住宅が並んでいる街なみの中に、ポツリポツリと工場がある東成区。その工場のひとつが株式会社光製作所です。代表取締役社長の井上さんに地域へのかかわりから中小企業憲章についてうかがいました。



た。これまでは会社の運営や経営状況は身内だけで話しあい、さまざまな情報が社内でも共有されていない会社でした。これでは会社の発展はない、もっと風通しのいい会社にしたかった。と思っていて、同友会に出会い入会しました。

会社改革で気づいてきた地域とのかかわり

同友会に入会してすぐに経営指針確立成文化セミナー(当時)に参加し、社内の風通しをよくしようと改善にとりかかり、まず社内会議を開こうと考えた井上さんは社長(当時)より、昼休憩後の15分だけ時間をもらい開催しました。はじめは一方通行の会議でしたが次第に議論がすすみ、時間が足りないとの声が社員さんから上がるようになります。

そんな会社改革の取り組みが「東成区住工共存まちづくり懇談会」に参加することにつながります。大阪の東部エリアは東大阪を代表に昔からモノづくり企業の集積地であり、東成区も多くの町工場があります。現在は住宅も増えてきており、住宅地の中に工場がところどころにあるような街です。

「東成区住工共存まちづくり懇談会」の会議で、いずれ東大阪のように住工混在が問題になる、それならば企業の方から住民にかかわってほしいとの意見から「わが町工場見隊」の活動が始まりました。

「わが町工場見隊」の活動

住民の方に町工場を知ってもらえれば、住工で問題になる、工場からでる音などにも少しは理解がでてくるのでは？また、工場側も住民への気づきがいが出てくるのでは？との思いが飛び交いました。そして地域の小学生が親子でモノづくり企業を見学し、モノづくりを体験し、モノづくりへの熱い思いを生で聞く機会としてできた企画が「わが町工場見隊」です。これには多くの東成区の同友会企業が参加しています。

風通しのいい会社になりたい

株式会社光製作所は、1937年に祖父が神社仏閣の灯籠やバス停の標識を製作する職人集団として創業しました。創業以来ずっと精密板金加工の技術を磨き発展してきました。現在は道路照明器具や医療機器用・照明用の筐体などを生産しています。

3代目にあたる井上さんは高校卒業後10年間海外留学や現地駐在での仕事をしており、帰国後は、光製作所の取引先で7年間修行をかねて勤めました。当時社長のお父さんの体調、体力の衰えを考え2008年に光製作所に帰ってきました。2013年に代表取締役に就任しました。

取引先企業で7年間企業人として勤めていた井上さんが、入社して感じたことは家族経営と企業経営のギャップでし



東成区民センターで行われたモノづくり体験では、金属を加工する楽しさを知ってもらったところから参加した子どもたちから「すごい」との声があがり社員さんたちも非常に喜んでいました。社員さんたちが賛同して参加してくれるのも、経営理念があり、同友会に入会して始めた社内会議があったからだと言います。現在「わが町工場見隊」を7年間で、14回開催しています。



キヤド操作中、常務取締役

東成区の取り組み

このような取り組みから行政とのかかわりが増え、東成区の企業とのつながりが増えました。昨年麻野東成区長から区政会議に東成区の企業経営者として意見を出してほしいと依頼があり参加しています。麻野区長は同友会の東成・生野支部の活動にもよく参加され、同友会運動にも賛同してくれています。

東成区は官民協議体「関西SDGs※プラットフォーム」の設立賛同団体としてSDGsの推進に取り組み、その活動の一環として「ひがしなり企業区民連携フォーラム」が設立されることになり、これもまたそのメンバーになってほしいと依頼がありました。

井上さんは「東成区の魅力を発信し、東成区で働きたい、住みたいという人を増やす活動を地元企業が集まってやっていきたい」と要望します。その理由として、東成区は約8万人の人口でおおよそ5000の事業所があります。日中は8万人のうち2万人が他地域へ働きにいき、他地域から2万人が東成区に働きにきている、もし災害があった時には東成区で働いている人や東成区にある企業が協力しあう必要がある、そのためにも東成区で働く人を増やしたいとのことです。

※SDGsとは

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称 外務省ホームページ参照

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html

支部再編があったから地域を意識できた

井上さんが同友会に入ったところは仲間づくりや経営者としての学びを追い求める活動ばかりで地元の東成を意識していませんでした。機構改革がすすむ中で初めて地域を考え、かわりを持つようになり、経営でも地域を意識した社内改革をすすめています。

光製作所の経営ビジョンに「東成区で就職したい先No1」をめざし、地域の人が自慢できる企業になることがあげられています。実現に向け東成区住民手当(月額1万円)や、授業参観や家庭の所用のために2時間単位で取れる有給休暇を作ったりしています。東成区住民手当は、東成区の社員なら朝・昼・晩の三食、家族と食事が可能であり、これが幸せの追求につながる。2時間有給は、働きながら少し抜けて子どもの学校行事や地域行事にも参加できる、との思いではじめました。やりだしたばかりなのでうまくいかどうか、これからの楽しみと井上さんは言います。

中小企業憲章とは

「我々は社会の光となります」光製作所の経営理念です。地域の活動をする中で、社員さんたちの経営理念が深まってきているとのこと。井上さんはじめ社員さんにとって、さまざまな活動の判断基準となっています。

中小企業憲章とは中小企業はこんなにかんがっているから認めてくれ、何かをしてくれと訴えることではない、中小企業憲章とは、私たち中小企業が国や国民に対しこんないい会社があること、中小企業ができることをアピールすること、中小企業が主体者になることだと井上さんは言います。

光製作所にとって経営理念の実践こそが、中小企業憲章運動だと感じた取材でした。私たち同友会の仲間もそれぞれ自社の経営理念を追求することが憲章の運動に通ずるのではないのでしょうか？

(取材:大西、西岡、文:山田、写真:田村)



Profile

企業名:株式会社光製作所
所在地:大阪市東成区大今里南4丁目
URL:<http://www.hikari-ltd.com>
創業:1937年
資本金:3,000万円
年商:1億円
社員数:11名
業務内容:道路照明器具、医療用機器筐体、産業機器カバー